

百年先の未来に残したい手仕事

会場では5工程の実演があり
ふっくらと柔らかな風合いを生む
職人の手わざをご覧くださいませ



真綿かけ

重曹で煮た繭5〜6個を一つ一つ指で広げ、重ねて1枚の袋状の真綿を作ります。俗に「綿かけ8年、糸つむぎ3年」というぐらい良い糸つむぎ糸の決め手は真綿かけにあります。



糸つむぎ

すべて真綿から手でつむぎ出した撚りの無い糸を使用。世界唯一の糸づくりの方法。1反に約3万mの糸が使われていて、無地の本場結城紬でも糸をつむぐだけで約3か月かかります。

1956年 「糸つむぎ・緋くり・地機織り」の3工程が国の重要無形文化財に指定

2010年 本場結城紬の製作技術がユネスコの無形文化遺産に登録



緋くり

緋模様を付ける場合は染めたくない部分を綿糸で括り、糸の状態で模様をつくります。物によっては10万ヶ所以上括るものもあります。

*その他、糸に直接色を擦り込む「直接染色法」という技術もあります。



たたき染め

本場結城紬は緋表現が非常に細かい為、産地独特の「たたき染め」と言う染色技法を用います。緋くりされた糸を棒の先に縛り、台に棒を叩きつけながら染料を緋の際まで浸透させる職人技です。

*たたき過ぎると染料が染み込みすぎて模様が不鮮明に。逆もしかり。職人の経験と勘が命です。



地機織り

織子さんが経糸を腰で支えテンションを調整し、足にくり付けた紐を引っ張ることで経糸を上下に開きながら、足、腰、腕、手、目、全身を使って織っていきます。また刀杼といった大きな杼でしっかり打ち込むことで丈夫でしなやかな布が出来ます。

ご挨拶

「10年、20年、100年先へ
伝えていこう、技術と誇りと夢を」

2010年にユネスコ無形文化遺産に技術登録された本場結城紬は世界でも唯一、繭から真綿をつくり、真綿から手でつむぎ、空気を沢山含んだ撚りのないシルクの手つむぎ糸です。

「糸」をテーマに豊富な品揃えの本場結城紬となかなか見ることの出来ない5工程の手わざもご覧いただけます。みなさまにお会いできる事を楽しみにしております。

本場結城紬卸商協同組合 理事長
奥澤 武治



「糸」

本場結城紬の風合い、着心地は全て真綿から指先でつむぎ出される「糸」によるものです。

撚りの無い空気を含む「糸」
織りにくい糸を織り上げる「技」
これを身に纏う人。

世界に誇れる日本の文化です。

本場結城紬振興事業 実行委員長
藤貫 成一

